

中齋塾 東京フォーラム
平成 24 年 第 9 回講話

平成 24 年 11 月 10 日
於 二松学舎

学校で勉強をするというのは若返って良い事だと思います。私も前回若返ってお話をさせて戴きました。大野参与が居られると益々そんな気持ちになります。学生時代に大野参与の話を聞いて、私も外国に出掛けたいと思い、心の貯金箱を始めました。後で考えて見ますと陽明学の何かを考えたら即座に実行だという考え方を、知らず知らずの内に始めていたという事に思いあたりました。どうぞ、御自分の学生時代の頃を思い出して戴きたいと思います。

恒例の質問

・嘘をつかなかった人？

世の中嘘がはびこっていますが、首相がいつ解散するかということは言わなくてよい、嘘をついてもよいという考えが世に蔓延っています。これは、いけません。ただ世のため、人のためにする嘘というのは微妙なポジションです。死にそうな人に「あなたそろそろ死にそうだね」と素直に言う科白はよくないですし、「氣力を持って、大丈夫だ、頑張れ」という言葉は許されるだろうと思っています。嘘の境界線は人によって少し違う気がします。

・昨日一日有難うと言い、言われたか。

誰かに有難うと言われる行動をしていると、心が爽やかで清々しいです。ところが、顔を見た瞬間に「あなたのおかげで酷い目にあった」とドンドン文句を言われたら清々しくはないです。やはり「有難う」と言い、「有難う」と言われる日々を過ごされるとよいでしょう。

・昨日一日、良い日だった人？

瞬間的にポンと手が挙がる人と少し考えて手が挙がる人がいます。私は寝る時、今日一日どうであったかを考え、よかったなと考えるとそれを刻み込んでから寝るようにしていますので、「昨日一日良かったか」という問いには、すぐ手が挙がります。それは渋沢栄一が『論語講義』の中で、夜寝る時に、その日の出来事を反省するようしており、三度顧みるという「三省」というものがあり、これを自分自身の生活習慣にしました。嫌な事があっても良かった事を思い出して、悪かった事は消してしまう。そうすると良い思い出が残る。特に夫婦げんかをした翌日、その様な事をすると爽やかな朝が迎えられる。引きずってしまうと大変ですから、引きずらないようにしましょう。

・今朝起きてここまで来る間、健康法を実践した人？

実践をしようと思うのは50歳半ばの坂をすぎるとそう思うもので、60歳半ばを過ぎた方なら、是非健康法は取り入れて実践して下さい。お勧めです。70～80歳はだいたい御自分の健康法を実践している方が多いですね。

・明日、夜寝る時に過去形で考えられるかどうか。

私は明日このように動き、誰と会って全部できて良かったなと思って寝る自分の姿をイメージして、それが本当にイメージできたのなら眠る。イメージ出来なかったらもう一回見直しをして、それも「出来なかった」とイメージするのではなく、「出来た」というイメージで、明日を過去形で考えて寝るようにしています。

今日の論語 『先進第十一』

【八】顔淵^{がんえん} 死す^し。子曰く^し、噫^あ、天^{てん} 予を喪^{われ}せり^{ほろぼ}。天^{てん} 予を喪^{われ}せりと^{ほろぼ}。

孔子の一番弟子の顔淵が死んだ。自分の学問を伝えるのは顔淵しかいないと言っていたのに、死んでしまった。これは天が私を見放し、私を滅ぼしたと言ってもよい。

置き換えて考えてみますと、会社・組織を立ち上げた人の後継者が出来ていればよいのですが、後継者がきちんと出来ていない場合は、どのような思いで後継者を考えるか。後継者が先に亡くなった場合、天は私を見放したのだと思うレベルまでいっているかどうか、中々そうはいかない。自分のしている仕事が世のため、人のためになっている。自分のしている事が天から与えられたもの、天が使命を下さったもの。天から直結して世のため、人のためになる仕事をしているという自覚が強烈であればある程、後継者が消えてしまった時に、天が私を滅ぼしたのだという述懐に繋がる。その述懐に繋がらないで、私が死んだらこの会社・組織は終わりだと思ったら、まだ思いは強烈ではないと見ていいでしょう。

【九】顔淵^{がんえん} 死す^し。子^し 之^{これ}を哭^{こく}して^{どう}働^{じゆう}す。従^{じゆう}者^{しかいわ}曰^しく、子^し 働^{どう}せりと。曰^{いわ}く、働^{どう}すること有^ありしか。夫^かの人^{ひと}の為^{ため}に働^{どう}するに非^{あら}ずして、誰^たが為^{ため}にかせんと。

顔淵が死んだ時、孔子が泣き叫んで泣き崩れた。従者が「先生は礼儀を超えて泣き崩れたのか」と聞く。孔子は答えて、「顔淵が死んだ時に泣き崩れないで、一体誰のために泣き崩れるのか。思いつき泣き叫んで当たり前ではないか、君はそれを止めるのか」という風な遣り取りです。それだけ思われている師弟関係は良いなと思います。

私が唯一師匠と呼んだ方が木内信胤先生でした。私が師匠と呼んでいましたら、「群馬で若い友達が出来てね」と人様に言って戴いたのが嬉しかった。また御子息の木内孝さんは父親が家で「若い友人が出来てね」と言って戴いたのを記憶して戴いておりました。その話を私に聞かせてくれて何とも嬉しいなと思いました。そのように人間関係が密に出来る

といいなと思います。

【一〇】顔淵 死す。門人 厚く之を葬らんと欲す。子曰く、不可なりと。門人 厚く之を葬る。子曰く、回や 予を視ること、猶 父のごとくす。予 視ること猶 子のごとくするを得ず。我に非ざるなり。夫の二三子なりと。

顔淵が死んだ時、お弟子さん達が分を超えた盛大な葬式をしたいと考え孔子に尋ねたところ、孔子が駄目だと言いました。それにも関わらず、弟子達は顔淵に盛大なお葬式をしました。孔子が言うには、顔回は私を見る時に父親を見るような眼差しで私を敬ってくれた。私は自分の子供のように、顔回に対しても分相応な慎ましやかなお葬式をあげたいと思っていたら、私の心を押し量って弟子達が勝手に盛大な葬式をあげたのは、けしからん弟子達だと言っていました。

【一一】季路 鬼神に事えんことを問う。子曰く、未だ人に事うることを能わず、焉んぞ能く鬼に事えんと。敢て死を問うと。曰く、未だ生を知らず、焉んぞ死を知らんと。

鬼神は祖先のことです。先祖の魂。日本人が持っている鬼のイメージは、角が生えているイメージですが、ここでは角が生えた鬼ではありません。

子路が「先祖の霊にお仕えする時には、どうしたらよいでしょうか」と孔子に尋ねました。孔子が言うには、「人様とお付き合いすること、君主に仕えること、身内の人とお付き合いすること、そういうことは、なかなかきちんと出来ない。それなのにどうして死んだ人の魂に仕えることが出来ようか」子路がさらに死について尋ねました。孔子は答えて「私はまだ生きることの意味、意義、生き方がまだよく分かっていないのだから、どうして死について知ることができようか」と反問になっています。

話は飛びますが最近思うことで、皆様は宇宙意識というものを頭の中に描きますか？銀河で考えた時に、人間と同じような生命体が存在していると思う方おられますか？

(多数、手が挙がる)

—ありがとうございます。

私は気がつかないけれど、いるのではないかなと思っています。そうすると、マンガやSFではないのですが、もしかしたらこの中に化けているかもしれません。その時にはそっと教えて戴きたい。それは楽しいだろうと思うし全く違う発想がでてくるとしています。そんなことを考えているので、鳩山さんではありませんが、もし自分が宇宙人だったならば、もし自分が生まれ変わるのなら、どのように生まれ変わるか。これは輪廻転生の考

え方になります。前にブータンへ行った時、ブータン国民の真面目な会話のやり取りで、偉い方が亡くなり、生れ変わりはどこにいるかと国内を調べることが普通の生活習慣になっています。自分の常識だけで考えていると分からないことが世の中には多すぎるので、自分の常識で判断できないものが、この世の中にあるなと思えば、人生は楽しいものだと感じます。自分が思っている常識外を意識して考える習慣をつけて下さい。その様なものがポンと出なければ、ブータンという国はどうなのか、仏教というのはどのような考えをするのかと掘り下げて見ると、自分の常識以外のものが見えてくると、ここら辺から連想できます。

時事評論

<終戦直後の日本を考え、かつ当時を見直して現代を見直す>

終戦直後で考えると、何が出てくるか

まず食べ物がありません。前にも申しあげましたが、終戦直後の闇市で物を買うのを拒否して正式の配給ルートの食糧で命を繋いでいたら餓死をしてしまったという裁判官の話が出てきます。その裁判官の息子さんが二松学舎で学んでいて同級生でした。私も聞いているのは宿屋の婿養子になったという話ぐらいしか知りませんが、終戦直後に餓死をした人が自分の父親だったという、その話ひとつの為に、残された家族はかなり苦しんだと聞いています。何かひとつ人様の記憶に残るものがあると、それによって苦しめられる人もいるし、胸を張る人もいる。なかなか難しいものだと感じます。その頃の話の色々聞きますと、サツマイモが嫌いだという世代が多いですが、またサツマイモを食べる時代になると思います。

次はインフレ。ドイツは一兆倍のインフレがあったが、日本はせいぜい百倍ぐらいと言います。大したインフレではないが、百倍で考えると大変なことになる。終戦直後の日本は食べ物がなくなり、インフレに見舞われて、生活が窮乏して大変だった。私の三歳上の兄ですが、私より小柄です。色々聞いてみますと、終戦直後の育ちだからあまり食べ物がなく栄養が体にいき渡らず小柄で、私はある程度栄養がいき渡りつつある頃の育ちだったようですから、何とか大きくなったというように聞いています。

これからの日本、またこれからどのように生きていくかを考えてゆく上でどういうことを考えればよいかという時に、何度も念押ししていることですが、終戦直後の状況を自分なりに学び調べて行くことが必要である。ちなみにNHKで吉田茂元首相のドラマをやっていました。「梅ちゃん先生」も終わりましたが、NHKで放映していました。ご覧になられた方はおられますか？

マスコミが終戦直後のことを意識的にせよ無意識であれ取り上げているというのは、も

う一度その時代がきますよ、危ないですよ、自分で準備して下さいというメッセージを無言のうちに発しているのだと思います。終戦直後の話が話題になれば、皆さん氣をつけようとなりますよね。そこら辺をたぶんどこかでリーダーシップを取っている人がいるのだろうと私はそう考えています。世の中氣をつけて見ると、やらせが段々溢れてくる。その様なドラマも増えてくる。韓国・北朝鮮を考えれば、意識的にやらせています。中国も同様です。

この間ペマ・ギャルポさんにお会いしました。中国がチベットを飲み込んだ時と同じような手法で日本も飲み込まれつつあるという警告を出している人です。私はその方の書いた本の題名、『日本の天皇を戦犯として処刑することが中国としての日本に対しての最終目標である』が過激だから、どういう人間かお会いしたいと思ってお会いしたら、かなり穏やかな人でした。ただ家族が殺され、自分は何とか助かって生き延びてきました。人様から受ける第一印象を良い人柄にみえるように穏やかに穏やかにと人格を転換していったが、根っこにはマグマのようなドロドロしたものがあるという印象も少なからず受けました。

今ある日本はペマ・ギャルポさんの目から見ると段々危ない所に入ってきたなという風に見えるという話を聞いていて色々と共感する所がありました。

中国が日本に対してどういう仕掛けをしているのかという事が見えてくる。意識して見てゆくと色々なものが見え、自分自身の対応も考えるという流れになると思います。

<中齋塾フォーラムの指針>

代表幹事の挨拶に「世の中、目的を言わない集まり・会合が多い」とありましたので、中齋塾フォーラムのことに少々触れたいと思います。

中齋塾フォーラムは、来年「一般財団法人中齋塾フォーラム」になり、目的はといえば単純明快でして、「足るを知る」という考え方を掘り下げて我がものとし、「足るを知る」という考え方で生きて行きたい。それが腑に落ちてくれれば、この中齋塾フォーラムを考える団体、組織、政府、グループと勉強して地域に広げて行き、日本全国に広がれば、世界に広がるのは早いと思います。「足るを知る」という考え方を我がものとするその手法として、論語を判断材料として取り入れており、論語を陽明学で解釈をしています。判断基準としては渋沢栄一さんの『論語講義』が一番波長に合うと思っているので、渋沢栄一さんの話をさせて戴いています。論語講義の話をする時には陽明学の考え方でいき、考えたら、思ったら実行をしようというのが陽明学です。陽明学は行動重視なので、私は世界各国でデフォルトをした国々を歩き、その目で見てきました。

論語を判断基準にし、陽明学を自分のものとし、それから木内信胤先生の考え方も入っております。木内信胤先生や安岡正篤先生の考え方を私流の言葉で変えて申しますと、物事を考える時には本質はどうなっているのか、歴史的にみるとどうか、大局観でみるとどうか。本質・大局・歴史の話の中で、知らず知らずの内に皆様方の判断基準になるような話し方をしていきたいと考えています。尚且つここ数年は時事評論をしております。一昨

年から何度も申し上げていますのは、マスコミが劣化していますから、マスコミのいうもので氣をつけていくものは3つあります。

一、民主党の打つ無様な手をよく見て戴きたい。

二、国債。人類が発明したお金という決済機能が行き詰まり、日本はその内デノミをし、デフォルトをするでしょうから、そこら辺を見る基準として国債の動向を見て戴きたい。

三、自然災害の動き。ちなみに「日本のインフレが壊れる」と東日本大震災が起こる3年前から言い続けていたら、ある集まりで東日本大震災が起った後、「貴方は何故ああ言う事が言えたのですか？」と聞かれました。安岡干支学をみてみますと、だいたい大まかな推測はつきます。平成25年は「きし・みずのとみ」という年まわりです。次回の新年号である季刊誌「知足」に干支について書きましたので、どうぞお手元に届きましたらご覧下さい。私は語源からみるのですが、平成25年の干支「きし・みずのとみ」の「き」という字の成り立ちは「筋道をたてる」となります。「み」は、蛇が目覚める年。ということで将来を見通した新興勢力が生まれるのが平成25年という書き方になっています。平成25年は将来を見通した新しい勢力が生まれる年ということは政党がどんどん嫌になるぐらい出て来る。乱立してお互い足を引っ張りあう。石原さんが出てきたかと思えば、もう失速していますから早いですね。おまけに石原後継といった神奈川県の元知事が石原批判を始めています。まあ何と魑魅魍魎の世界だと思えます。

日本の国の資金繰り

今、国は借金をして金を払おうとしているが、足を引っ張る勢力が大きくてなかなか金を払えないから、県も困ってしまい、借金をする。国債と県債です。財務省が11月27日以降は国債を発行しないという予定を組んでいます。

ある市の管財課は「遅延することは絶対ないです」と兄に断言したそうですが、以前その市役所で金を払う担当者が新婚旅行に行く際に支払いの手続きをしないで新婚旅行に行ったので、「帰って来るまで待って下さい」と言われたことがあります。そんな馬鹿な理由で市がお金を払わなかった事がある。また違う理由で払わなかったことが何度もあります。

怖いのは各都道府県、各市町村から頂いている仕事を貰えなくなり、民間のお客様からお金を払われなくなった時には危ない。まだそこまではいかないと踏んでいますが、もしそうなったら銀行にお金を借りる。銀行の当座貸越は用意があるけれども、やはり民間のお客様が払わなくなったら危険だから手を打たなければいけないという事で、新聞を読んでいます。そうしたら昨日の朝日新聞で、「交付税が遅れ、支払いが延期された。地方交付税9月分の2.1兆円は道府県に払われなかった。金利負担で5700万円ほど発生している。12月2日の交付税4兆円も延期された。これは22市町へ広がる動きである。これによって兵庫県の尾上市は市職員のボーナス延期を開始した。9月分の繰り替えて3500万の運用資金が飛んでしまった。おまけに東電が原発再稼働をしなければ13年度の黒字は無理だか

ら追加支援を政府に依頼するという東電の広瀬社長が発表」とありました。そこら辺をずっと見ていますと、かなり日本の国の資金繰りは苦しみ悶えている。当然のごとくお金を動かしている自治体・企業・家庭もお金が回らなくなる。

私が時事評論をする時に、本質・大局・歴史で見ましようと言っていますが、本質で見れば、日本はこれだけの赤字を背負っているのは、崖から落ちて、ミシミシと綱がいいながらどうにかぶら下がっている。歴史的には、国民はどうか。私が今一番の恐怖感で見ているのは、終戦直後の話です。銀行に預けているお金がみな凍結になり新円も発行されました。昔のお金は使えません。全部銀行に預けて下さいという事で、へそくりやタンス預金も全部吐き出したら凍結されてしまった。でも凍結したけれど、お金がないと回らないから当時 500 円だけは生活資金でおろせました。この様な動きを日本政府はかつてやりました。インフレ 100 倍でまともに物が買えなくなるというのが、本質・大局・歴史観で見ていると当然起るといのは誰でも簡単に予測はつく。そうすると大局観で見ると、いつ起きるかという所になります。いつ起きるかというのは現状の政治を見ていますと、政治家同士足の引っ張り合いをしていて、段々近づいているなと感じます。角が生えて来る奥さん方、男の額からも角が生えるかもしれないという様な阿鼻叫喚の地獄図というのが私には想像できます。

ちなみにペマ・ギャルポさんの話ですが、私がこの手の話をして賛同して戴いたのですが、ソ連がロシアに変わった時に、私は 2 千万人ぐらいが餓死をしたと思っている。これから何千万人という単位で死ぬのは中国が最初にみえる。私は調べてみてその様に感じますと言いましたら、それも「おっしゃるとおりですね」という答えが返ってきました。ペマ・ギャルポさんもこれから世界で大勢の人が死ぬのは中国ではないかと言っていました。

なかなかこんな話をする人眉唾だという人が多いのですが、大野参与の次にペマ・ギャルポさんが同じ見解を述べて下さり、嬉しく思いました。